



学校だより
ながや

令和3年度 第7号

令和3年 9月30日(A)

10月1日(B)

横浜市立永谷小学校

校長 平野 好子

端末を使った学習への挑戦

校長 平野 好子

新型コロナウイルス感染症の新規感染者の数はここ最近、やっと下降線をたどり始めました。9月末日までを期限として発出された緊急事態宣言も全面解除に向け、調整に入り、解除後は、行動制限を求め、段階的に緩和する方針だと報道されています。

8月31日までの臨時休業の間、保護者の皆様のご協力のもと家庭での子どもたちの健康状態をロイノート・スクールや電話等によって把握することができました。また、9月1日からの教育活動再開に向けて、各家庭の常設Wi-Fi状況の調査へのご協力をいただき、今後の教育活動の継続やオンライン授業実施に向けて、各学年に応じて、段階的に端末等を活用した学習活動を可能な限り計画し、進めてまいりました。

9月1日から、学級を登校グループと家庭学習グループの2つに分け、分散登校・短縮授業による教育活動を再開してまいりました。学校再開初日となる9月1日には、子どもたちが、1人1台端末を持ち帰りました。そしてこの日以来、子どもたちは登校日にはかなり重量のある端末をもって登校し、教室で各担任と端末を使った学び方を学びました。下校後14:05から14:30での時間や次の日の家庭学習日には、家庭等で端末を使って実際に課題へ取り組みました。このように子どもたちの学びを継続することができたことは、保護者の皆様のご理解・ご協力なくしてはできなかつたと、深く感謝申し上げます。

今回、端末を使った学習に対してご支援・ご協力の上で、本校が取り組んでいったことは、今後、何らかの形で学校に登校できない状況になった子どもたちに対して、私たち教職員自身にとっても、学びを止めない学習の可能性への挑戦となりました。分散登校後半には、高学年から朝の会から1時間目に至るオンライン授業にも挑戦しました。9月末には、1~4年生もオンライン朝の会を実施しました。夏休み明けからこれまで、密を避けるために、2つに分けたA・Bグループで学習を進め、この間、学級の全員が顔を合わせて学校生活を行うことはありませんでした。オンラインでクラスの友達同士で顔を見ることができ、声を聴くことができる、話をするができる、これらの「できる」は、私たち教職員にとっても、挑戦が形になり、大変うれしいことでした。端末というツールを使った新たな学習方法への大きな可能性を見出すことができました。

同時に、ネット社会で生きる子どもたちに、学んでもらいたいことも浮き彫りになってきました。情報モラルの指導については、今後もしっかり取り組んでまいります。

保護者の皆様、地域の皆様、臨時休業から今日の分散登校への支援に多大なるご理解・ご支援いただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後とも、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。